愛媛・久米窪田森元遺跡

1 所在地　愛媛県松山市久米窪田町

2 調査期間　第三次調査　一九九二年（平4）一一月～一九九三年二月

3 発掘機関　㈶松山市埋蔵文化財センター

4 調査担当者　西尾幸則・山本健一

5 遺跡の種類　集落跡・水路跡

6 遺跡の年代　弥生時代後期～奈良時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

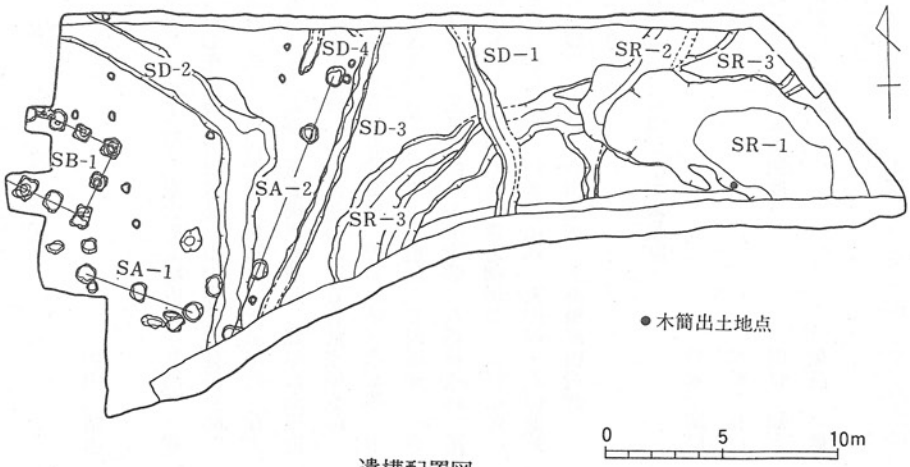
久米窪田森元遺跡は、松山平野の南東部、小野川右岸面に開かれた来住舌状台地の南端部（標高四六・五m）に立地する遺跡である。当地域は古代伊予国一四郡のうちの久米郡に所属し、その中心的位置を占める。

これまで、来住舌状台地西端部から「久米評」と線刻した須恵器をはじめ、本調査地の西方一・二kmから検出された回廊状遺構南側の地から木簡状木製品数点が出土し、本調査地の北側隣接地からも木簡が出土している。

（松山南部）

調査の結果、掘立柱建物一棟、柵列二条、溝四条、土坑三基、柱穴一八基、自然流路三条を検出した。

このうち掘立柱建物（SB一）の規模は、桁行三間分（四m）、梁行二間（三・三m）で、台地落ち際から検出された。建物としては南端域に位置している。層序的には八世紀の須



遺構配置図

恵器類が出土している。この掘立柱建物に隣接して柵列二条が検出され、柵列ＳＡ二は、掘立柱建物の東側八ｍの地にあり、ＳＢ一の梁行と方向がほぼ共通し、埋土も同じである。また溝ＳＤ三はＳＡ二の東一ｍの所で平行して一四ｍ分検出され、埋土もＳＢ一、ＳＡ二と同じであり、これらは同時期のものである可能性がある。

これら建物の東側は、南方から東西二五ｍの半円形状に入りこんだ低湿地の溜りとなり、三回にわたる北方向からの流路堆積を検出した。このうち上層からは、七～八世紀中葉の須恵器類と共に木簡や木簡状木製品が出土し、中層からは古墳時代の須恵器類が出土、最下層からは弥生後期の土器類が出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「〈〔　〕」　130×23×3　032

出土木簡は文字が抹消され判読困難であるが墨痕が確認される。本調査地の北側隣接地からも奈良時代の木簡が出土しており（『木簡研究』二）、この遺跡との関係も考えられる。

9 関係文献

松山市埋蔵文化財センター『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅴ』（一九九三年）

愛媛県教育委員会『一般国道一一号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』（一九八一年）

（西尾幸則）

木簡研究　第一三号

巻頭言　笹山　晴生

一九九〇年出土の木簡

概要　平城京跡左京三条三坊十二坪　東大寺旧境内（三社池）　藤原宮跡　藤原京跡右京七条二坊　山田道跡　山田寺跡　長岡京跡　今里城跡　鳥羽離宮跡　壬生寺境内遺跡　里遺跡　大坂城跡　住友銅吹所跡　山之内遺跡　勝山遺跡　新金岡更池遺跡　豊嶋郡条里遺跡　五反島遺跡　上小名田遺跡　吉田南遺跡　明石城武家屋敷跡　今宿丁田遺跡　袴狭遺跡　伊賀国府推定地　瀬名遺跡　忍城跡　市原条里制遺跡　鉢形地区条里遺跡　石田三宅遺跡　斗西遺跡　一乗谷朝倉氏遺跡　浄水寺跡　上荒屋遺跡　田中遺跡　八幡林遺跡　緒立Ｃ遺跡　的場遺跡　荒田目条里制遺構　柳之御所跡　矢野遺跡　岡山城二之丸跡　草戸千軒町遺跡　長登銅山跡　東山崎・水田遺跡　鴻臚館跡　大宰府跡　観世音寺跡　多田遺跡　上高橋高田遺跡

一九七七年以前出土の木簡（一三）

飛鳥京跡　県立明日香養護学校遺跡　大坂城跡

下曽我遺跡と出土木簡　鈴木　靖民

香川県長福寺出土の木簡　館野　和己

「二条大路木簡」と古代の食料品貢進制度　樋口　知志

中国簡牘学国際学術研討会参加記　佐藤　信

彙報

頒価　四三〇〇円　〒五〇〇円